

早稲田大学剣道部史

The Brief History of Waseda University Kendo Club

1J02C177

中石 吉郎

指導教員

主査 志々田文明先生

副査 矢野尊之先生

はじめに

早稲田大学剣道部に在籍していた際、部の過去の実績や師範の先生方、また稽古方法や部の目標について疑問を感じた。調べようとしたが、簡単でかつひとめでわかるような資料がないことに気づいた。そこで卒業研究を行うに当たり、自ら『早稲田大学剣道部略史』の作成をおこなうことを本研究の目的とした。

この目的を達成するために早稲田大学剣道部について以下の内容項目を調査した。

- ・ 全日本学生剣道優勝大会の成績・関東学生剣道優勝大会の成績
- ・ 各時代の有力選手について・核時代の師範、指導者について
- ・ 各時代の稽古内容や学生の剣道に対する取り組み方・部員数などの推移

以上について過去56年間の年表を作成した。主な資料としては、上記の項目について詳細な資料がなされている以下の二誌(月刊誌『剣道日本』及び月刊誌『剣道時代』)を使用した。

また、準備考察として、剣道の本質と古代から現代に至る剣道略史、及び学生剣道略史を記述した。以下、早稲田大学剣道部略史について簡潔にまとめる。

早稲田大学剣道部略史

早稲田大学剣道部は戦前から全日本学生選抜軍として、海外へ遠征し活躍していた。また、学生剣道界をリードする存在でもあった。戦後、連合軍GHQの占領政策により、剣道は禁止されたが、大学の道場ではひそかに稽古が行われ、途

絶えることはなかった。稽古目標については各時代とも「全国制覇」という目標を掲げ、日々の稽古に精進してきた。早大剣道部は百年の歴史と剣道の本質を念頭におきながら稽古を行うことで常に勝負し、全日本学生剣道優勝大会及び関東学生剣道優勝大会において上位を狙ってきた。全日本学生剣道優勝大会においては、1965(昭和40)年に初の優勝を遂げた。この大会では「基本重視の稽古法」がとられていた。部が活躍した時の大会においては、「打ち込み稽古」が重視されている場合が多いなかで特筆される。1972(昭和47)年、1981(昭和56)年、2005(平成17)年の大会においては準優勝を勝ち取ったが、いずれも「打ち込み重視の稽古法」であった。このことは、関東学生剣道優勝大会においても同様であった。

関東学生剣道連盟における役割について。早大剣道部は、発足以来幹事校として主導的な役割を担ってきた。常に試合運営ならびに講習会などに率先して参加し、模範校と評価されてきた。警察剣道との関係について。早大剣道部は年に二度遠方へ強化合宿をおこなうが、毎回、各都道府県警察を訪問し、技術の向上に努めてきた。それは、各警察署には必ずといっていいほど技量に優れた八段の師範が存在し常時指導を行っていて、「強い剣道、正しい剣道」と評価されているためである。いわば学生剣道ひいては剣道界の手本になっているように理解される。警察剣道との交流によって早大剣道部がますます発展していくことを期待する。